

アフタヌーンセミナー 3

腰部脊柱管狭窄症、
今までの治療 だけで良いですか？

9月19日(金)

14:50～15:50

第4会場

6F展示場602+603

座長

谷 諭 先生

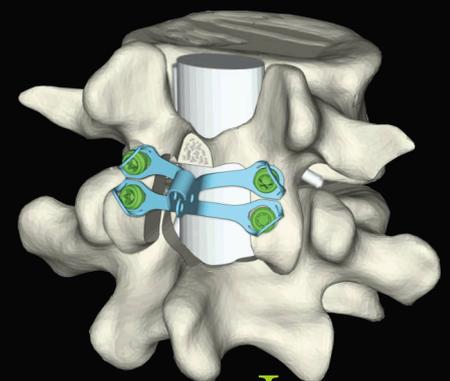
東京脊椎・関節クリニック羽田

演者

宮本 敬 先生

岐阜市民病院整形外科

腰部脊柱管狭窄症に対する後方除圧術において
脊椎後方要素のアーチ構造再建を意識し、
チタン製スペーサーを使用しています



L Wing

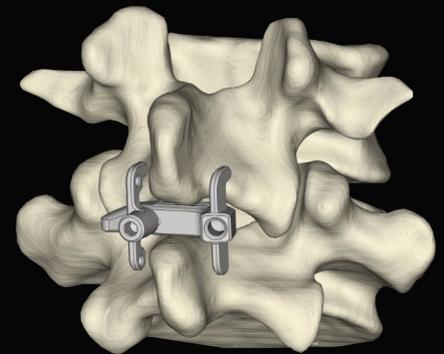
演者

水野 正喜 先生

三重大学医学部 脊髄末梢神経低侵襲外科、
鈴鹿回生病院 脳神経外科 脊椎・脊髄センター

明日から実践できる脊椎制動術

－ 腰部脊柱管狭窄症の新たな治療選択 －



Swift

承認番号:30300BZX00218000 承認番号:30200BZX00166000
販売名:Wingプレートシステム 販売名:Swift システム

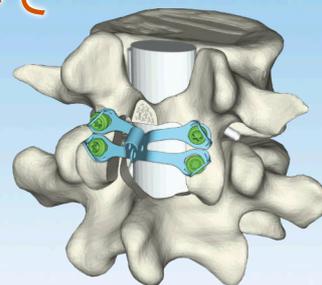
Inspired, Developed, and Manufactured - in Japan

共催:第32回一般社団法人日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会、株式会社アムテック

腰部脊柱管狭窄症に対する後方除圧術において 脊椎後方要素のアーチ構造再建を意識し、 チタン製スペーサーを使用しています

宮本 敬 先生

岐阜市民病院整形外科



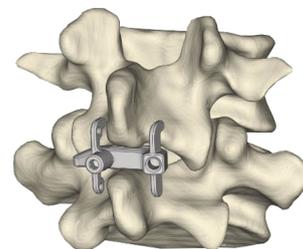
Key words : Lumbar spinal canal stenosis、posterior decompression、arch structure

私の腰部脊柱管狭窄症に対する治療術式は棘突起縦割式椎弓形成であり、オープン方式である。発育性脊柱管狭窄の要素があるもの等は、椎弓中央の骨切除を尾側から頭側に向けてトータルで行うことが多く、脊椎後方要素のアーチ構造が破綻する状態となる。最近のバイオメカニクス研究において、脊椎後方要素のアーチ構造の破綻は、後方要素へのストレスを増すことが示唆されている（井上望ら. 第40回日本脊髄外科学会）。少なくとも、脊椎後方要素のアーチ構造の願わくは温存、あるいは再建が望まれている。2024年度よりアムテック社のL-Wing（腰椎用椎弓スペーサー）を使用している。アーチ構造の再建、硬膜外癒痕の増生の予防等に有用であると考えているが、棘突起縦割式椎弓形成において、棘突起の逢着により、棘突起を含めたアーチ構造の再建も可能である（図）。本講演では主にL-Wingの初期使用経験について、手技上の注意点等も含めて、話をさせていただく。

明日から実践できる脊椎制動術 － 腰部脊柱管狭窄症の新たな治療選択 －

水野 正喜 先生

三重大学医学部 脊髄末梢神経低侵襲外科、鈴鹿回生病院 脳神経外科 脊椎・脊髄センター



Key words : interspinous process device, lumbar stabilization, lumbar canal stenosis

腰部脊柱管狭窄症に対する治療法として様々な手技がありますが、腰椎棘突起間デバイス(IPD)を用いた腰椎制動術(LS)は、最も低侵襲な手技と考えます。かつてはその治療効果は不定でしたが、国産のIPDが市販されてからその有用性が知られるようになり、腰部脊柱管狭窄症の重要な治療選択肢の一つとして確立されつつあります。

我々は、2022年からIPDを用いた手術を導入しました。その経験を元に、患者選択から局所麻酔での手術法、手術手技の要点や術後成績、IPDを応用した手術などを提示し、本手術の有益性について解説します。特に浸潤麻酔である脊柱起立筋膜面ブロックを併用した局所麻酔手術の方法と、通常椎弓切除にIPDを併用した手技について詳細に説明します。

本セミナーでは、IPDの治療経験を皆様と共有し、明日からの臨床に役立てていただけるよう願っております。